

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475100119
法人名	株式会社 アイ.ディ.エス
事業所名	グループホーム 第2バナナ園
訪問調査日	平成20年9月1日
評価確定日	平成20年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1475100119
法人名	株式会社 アイ.ディ.エス
事業所名	グループホーム 第2バナナ園
所在地	212-0055 川崎市幸区南加瀬3-7-23 (電話) 044-587-1773

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年9月1日
評価確定日	平成20年10月31日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	8 人
常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 3.6 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	3階建ての 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		2 名	
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 81 歳	最低 69 歳		最高 93 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	みなとメディケア・クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は株式会社アイ・ディ・エスで、バナナ園と云う名前を冠した6つのグループホームを持っている。オーナーはグループホーム経営に大きな理想を持ち、その保有するノウハウを生かしてホーム運営を進めている。施設の長にその運営の自由を与えているため施設長のポリシーが反映された特色あるホーム展開が為されている。このホームは川崎市の東部でJR横須賀線新川崎駅から徒歩20分、東横線元住吉駅からバスで10分の住宅地にある。ホームは旧産婦人科医院を改良した1ユニットで定員は8名、3Fはケア付き高齢者住宅で訪問介護扱いで展開している。利用者、職員共に明るく、近隣との協調体制に気を配り、各種イベントは家族を巻き込んで行っている。後述のように音楽療法を導入し好評である。また、食事に関しては従来利用していた配食業者の利用を取りやめ、入居者の要望を聞きながら職員がメニューを決め買い物をし手作りするよう切り替えた。3Fのケア付き高齢者住宅に栄養士がいるのでカロリーや栄養のバランスを見てもらっている。また、認知症デイの認可を受けているので多機能性として、また地域との密着などへの活用を考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4) この1年間は音楽療法の活用によるケアの充実に取り組んだ。音楽療法を卒論で取り組んだ音大生が大学を卒業し音楽療法の専門家になっても継続して月2回来てくれることとなった。正式な音楽療法としてアセスメント(グループの様子、席、楽器名、職員の感想etc.)を記録に残して実施し、ミュージックセラピーの効果で自己の意思表示、喜怒哀楽の豊かな表現が助長された。音楽が好きになったので童謡の入ったDVDを音楽療法の無い日に見て聞いて楽しんでいる。利用者の活性化に繋がったと考えている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価に際し、全職員に自己評価票を配布して記入してもらい、これを管理者が纏める形で作成した。ケアの方針はその日その日を大切に、利用者の目線に対応することであり、管理者は任せる態度で接しており、自主性が育っていると考えている。プロセスでの気付きや指摘事項などについては改善策を皆で検討しはホームの運営に反映させて行くことにしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議については近所にある、同じグループのバナナ園と合同で開催していたがプライバシーに関して川崎市からの方向付けがあり、個別に開催することとし既に2回開催している。メンバーは自治会長、地域代表の方、川崎市幸区の介護保険課の職員の方、市相談員、ご家族、入居者、職員と云う構成で、オブザーバーとして地域包括支援センターからもご参加を頂いている。今回は特に地域代表としてご近所の方々にも声をかけ、代表以外にもご参加を呼びかけることにしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族との連携については、職員が行う月次報告の折に、ケアマネを兼務する管理者が管理者とケアマネの視点で、状況変化等のりゆうも含めた手書きの手紙形式でお知らせするようにしている。これによりご家族は具体的な変化及びその対応等につき理解できると好評である。特に認知症による変化への理解が深まり、来訪時の外出介助などに協力的になるなど良い面が出ている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居の見学の際には孫の代まで一緒に来て頂き見て頂くようにしている。地域との関係では前の中学校の生徒さんたちに散歩の折に声をかけてもらったりしている。また介護の学校のじっしゅうせいの受け入れも実施している。前述の音楽療法の先生が月2回ボランティアで来てくれる。町内会の行事には可能な限り参加するようにし、お祭り、盆おどりなどは楽しんで参加している。町内会に加入し役員も務めた。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所共通の理念である自由をモットーにその人らしい暮らしが出来る様にしている。地域の方にも理念を理解していただけるよう交流を深めて行きたい。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼は欠かさず行いケアカンファレンスを取り入れている。その人らしく暮らしていける様、日々の話し合いを大切にしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者がホームの中だけで過ごさず積極的に近所に出かけて楽しめる様、買い物、散歩を心掛ける。地域との関係では前の中学校の生徒さんたちに散歩の折に声をかけてもらったりしている。また介護の学校の実習生の受け入れも実施している。前述の音楽療法の先生が月2回ボランティアで来てくれている。町内会の行事には可能な限り参加するようにし、お祭り、盆おどりなどは楽しんで参加している。町内会に加入し役員も務めた。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で見いだされた課題について改善の方向で全員で話し合いその実施に取り組んでいる。ケアの方針はその日その日を大切にし、利用者の目線で対応することであり、管理者は任せる態度で接しており、自主性が育っていると考えている。	○	今まで以上に向上するよう務め、自分自身を振り返る機会にする。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については近所の同じグループのバナナ園と合同で開催していたがプライバシーに関して川崎市からの方向付けがあり、個別に開催することとし既に2回開催している。今回は特に地域代表としてご近所の方々にも声をかけ、代表以外にもご参加を呼びかけることにしている。会議の内容が向上につながるよう務めている。		更に内容を充実させて行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員の方にも運営会議において頂きその方の考えを参考にさせて頂いています。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族との連携については、職員が行う月次報告の折に、ケアマネを兼務する管理者が管理者とケアマネの視点で、状況変化等のりゆうも含めた手書きの手紙形式でお知らせするようにしている。これによりご家族は具体的な変化及びその対応等につき理解できると好評である。ご家族面会時話す機会を設けている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の重要事項説明書内に於いて記載し説明している。事業所内に市や国保連の相談窓口の電話番号等提示、説明している。ご家族等、来園時に意見交換の充実を計っている。ご意見箱を設置し、意見や不満等を出して頂ける様にしている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者の信頼関係は構築されているが出来るだけ長く、馴染んだ職員の異動は避けている。避けることができない場合は、馴染んだ職員の居る間に新しい職員を馴染ませる努力をし、異動時の入居者のダメージ軽減の為、心のケアの向上に努めている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部主催の講習会(年5~6回) 外部主催の講習(年4~5回) 事業所内勉強会(年6回以上)を受け、日々の仕事に生かしている。今後も事業所内勉強会を充実させると共に社外講習会にも多く参加出来る様、シフトや時間の工夫をして行く。	○	今後も事業所内勉強会を充実させると共に社外講習会にも多く参加出来る様、シフトや時間の工夫をして行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との勉強会に於いて互いに施設を訪問し合い良さ悪さの意見交換をし、各々に活かし反映させている。 又、入居者を当事業所が受け入れる事の出来ない場合は同業者に紹介している。		今後も他の同業者との交流を行い各々の良さを取り入れ質の向上を目指して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安を与えないようにコミュニケーションをとり、ご家族にも協力して頂きながら安心して過ごせる様に取り組んでいる。今後ご家族と連携を取りながら安心した生活が送れるよう取組んでいく。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に傾聴しコミュニケーションをとりながら喜怒哀楽を共感し支援している。 入居者同志の交流を深め支え合う関係を築いている。 家庭らしさを演出出来る様に関係を築いて行く。		更に、家庭らしさを演出出来る様に関係を築いて行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望に沿った支援が出来る様に務め、ご家族にも支援を協力して頂きながら検討対応している。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族、全職員の意見を反映した介護計画となっている。ICF方式をベースとし、アセスメントは「受容の心」「自己決定」を基調に全員で実施している。本人の出来ること出来ないことを見極め、安心して暮らせるようご家族と話し合い充実させるよう努めている。	○	今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族との話し合いはもちろんケア会議等を通じて検討を行っている。定期的にモニタリングを行い少しの変化にも注意を払い現状に即した計画を作成し充実させるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人それぞれに対して見直しや工夫し出来る限り柔軟な支援が出来る様取り組んでいる。グループの力の活用を図っている。		ご家族の状況等、考慮しながら、活きた支援が行われているか、などを常に念頭に置きながら取り組んで行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常健康管理として居宅療養管理指導で往診、訪問看護をして頂き相談、指示を受けています。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応はマニュアル化されており各ご家族の方よりも理解を得ている。悪化が予測される場合は家族に連絡し相談、対応している。		今後ご家族に相談や報告し又、希望に添える様に取り組んで行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人を尊重し声かけを行う場合も何気なく行う等、心がけている。何気ない会話の中でも、その人を尊重する言葉を心がけ、記録等にも十分に注意をしている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞きいれ、一人ひとりのペースに合わせた一日の流れになっている。流れに合わせた刺激、生活リハビリ、レクレーションを行っている。日常生活であっても、平凡ではなく刺激がある程度有る様支援の幅を広げて行く。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で楽しみ、味でも満足し食事することが喜びになるように努める。そして配膳片付け等、入居者と共に行っている。入居者が進んで配膳、支度、片付け等が出来る様に支援して行く。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の楽しみ、リラックスする場であると思っている。時間をある程度決めていくが楽しい入浴が出来る様に支援している。入浴があまり好きでない入居者の方が喜んで入浴出来る様、工夫したり他の方も楽しめる様、支援していく。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出レク、例えば、外食など、おやつ作り、音楽療法、など、レクリエーションの幅を広げて支援している。レクリエーション等で入居者同士のコミュニケーションの場を増やす工夫をしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の状態を観察の上、散歩や、外出レクリエーションなどをおこなっている。外出することにより花や、外の空気に触れることにより、毎日の生活を楽しく過ごして頂くため支援している。今後も希望に添い約束したことを守る様、職員も努力支援していく。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険な場所であることもあり、入居者一人の外出は出来ない、又、ご家族にも説明しており了承を得ている。外出の時は職員または家族のもとに行っている。今後も、防犯を兼ね自宅と同じ様に鍵をかけるが、外出希望の場合は意志に添える様行っていく。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年消防点検を行い非常時に備えて実施している。避難訓練は消防署の指導のもとに実施している。	○	地域との連携は今後も強化していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適正な栄養摂取は献立、材料等、全員で考慮し栄養士のアドバイスを受けている。水分確保は毎日、時系列で表を作成し個別に記録し、適正量を補給している。栄養士、訪問看護、居宅療養管理指導、血液検査等の結果により個々に指導を受けている。	○	栄養士、訪問看護、居宅療養管理指導、血液検査等の結果により個々に指導を受けている。 体重測定、バイタルチェックを常時実施しスタッフ全員で把握し周知している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境にする様、個々に絵画、椅子の個別化、家族の持ち込みによる鉢、スナップ写真を配置している。	○	入居者様が手入れ、育成しやすい植木鉢を本人が好みに応じてお世話している。 談話室等に自作の作品を展示している。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物品、スナップ写真、寝具等、部屋のカーテンに至るまで好みに合わせている。家族、本人のアセスメントを詳細にリサーチし、従来の生活環境に近い状態に整えている。	○	今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 第2バナナ園
所在地 (県・市町村名)	212-0055 川崎市幸区南加瀬3-7-23
記入者名 (管理者)	大浦 勝子
記入日	平成 20 年 9 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所共通の理念である自由をモットウにその人らしい暮らしが出来る様にしている。	○	地域の方にも理念を理解していただけるよう交流していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼は欠かさず行いケアカンファレンスを取り入れている。	○	その人らしく暮らしていける様、日々の話し合いを大切にしている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	社内定刊行紙「バナナニュース」、ホームページ、介護報告を通じ取り組んでいる。	○	言語、パンフレット等を通して理念を伝えて行く。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日ごろの挨拶はもちろん回覧板を回す等、近所の人々との関係を深めている。	○	今後も近隣との交流を深めていける様、工夫して行く。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者がホームの中だけで過ごさず積極的に近所に出かけて楽しめる様、買い物、散歩を心掛ける。	○	近所への外出や散歩を楽しめる様、工夫、町内会の祭り、等にも参加して行く。
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方たちには普段からかかわり合いを深める様にしている。	○	運営推進会議等で、より深く理解して頂く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価で見いだされた課題について改善の方向で話し合いその実施に取り組んでいる。	○	今まで以上に向上する様、務める。自分自身を振り返るきっかけにする。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容が向上につながる様、務める。	○	更に内容を充実させていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員の方にも運営会議において頂きその方の考えを参考にさせていただいています。	○	判断に必要な知識向上に取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ケア会議に於いて現段階では話し合っていないが、青年後見制度に付いては必要を感じている。	○	福祉権利擁護や青年後見制度に付いて機会を持ち講習、等を通じ学んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は常に心の平常心を持って利用者様と接し個々の人格を尊重したケアに努める。	○	相手の気持ちに寄り添うケアに努めている。異常に気付いた時はすぐにケア会議や朝礼等で話し合いをする。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に施設の見学、ご本人ご家族が望む場合は一日の体験入所を2～3回行っている。その際に、十分な説明を行っている。病気等での解約の際は、ここで出来ない理由を丁寧に説明し、ご家族が納得出来る様説明している。	○	グループホームという施設をきちんと知って頂く。今後も不安なく入、退所出来る様努力していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載し説明している。運営推進委員会にも参加して頂き、説明を行っている。	○	5月より介護相談員を入れている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活記録、往診、看護記録、個人会計、ケアマネによる1ヶ月総評、等毎月郵送している。ご家族面会時も話す機会を設けている。	○	今後も継続して行く。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の重要事項説明書内に於いて記載し説明している。事業所内に市や国保連の相談窓口の電話番号等提示、説明している。	○	ご家族等、来園時に意見交換の充実を計っている。ご意見箱を設置し、意見や不満等を出して頂ける様にして行く。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、朝礼等を通じ、意見を出し反映出来る様にしている。本部での管理者会議時に提案し、反映する様にしている。	○	今後も各方面からの意見を聴き反映させて行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	無理のないローテーションを組めるように取り組み、支援の充実を図る。状況の変化等に即、対応出来る様、常に話しあっている。	○	今後も臨機応変に取り組めるようシフト調整に努める。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者の信頼関係は構築されているが出来るだけ長く、馴染んだ職員の異動は避けている。避けることができない場合は、馴染んだ職員の居る間に新しい職員を馴染ませる努力をする。	○	異動時の入居者のダメージ軽減の為、心のケアの向上に努める。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	本部主催の講習会(ケア、合同)		

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本部主催の講習会(年5~6回) 外部主催の講習(年4~5回) 事業所内勉強会(年6回以上)を受け、日々の仕事に生かしている。</p>	○	<p>今後も事業所内勉強会を充実させると共に社外講習会にも多く参加 出来る様、シフトや時間の工夫をして行く。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者との勉強会に於いて互いに施設を訪問し合い良き悪さの意見交換をし、各々に活かし反映させている。 又、入居者を当事業所が受け入れる事の出来ない場合は同業者に紹介している。</p>	○	<p>今後も他の同業者との交流を行い各々の良さを取り入れ質の向上を目指して行く。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日々の仕事の中、朝礼の場を意見交換の場としている。 常時、管理者、職員の話聞く体制をとっている。</p>	○	<p>今後も工夫し、継続していく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>シフトの調整、健康管理をし意見や工夫を活かす場とする。 各種講習会の案内を提示し勧める。</p>	○	<p>今後も取り組み継続して行く。</p>

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の意向を伺った上で、ご本人との話す機会を多く持ち、不安なく過ごして頂ける様、努力している。</p>	○	<p>今後も信頼関係を築く努力をして行く。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時度々接する時間を設け、何時でも不安なことや求めていること等、伺っている。</p>	○	<p>他のサービス機関とも連携し要望に添える様、努力する。</p>
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>施設内を見学して頂き、説明をしながら不安に感じていることなどを把握出来る様に取り組んでいる。</p>	○	<p>入所前に数日を、ディーサービスを利用して頂き早めに馴染めるよう工夫する。</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	不安を与えないようにコミュニケーションをとり、ご家族にも協力をして頂きながら安心して過ごせる様に取り組んでいる。	○	今後もご家族と連携を取りながら安心した生活が送れるよう取組んでいく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に傾聴しコミュニケーションをとりながら喜怒哀楽を共感し支援している。 入居者同志の交流を深め支え合う関係を築いている。	○	家庭らしさを演出出来る様に関係を築いて行く。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報交換を行う中で入居前の苦労などを共感し関係を築ける様に努めている。	○	今後も入居者やご家族との関係の構築に努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	何時でも気軽に来て頂ける様な環境作りに努めている。 近況報告や相談を交え支援を行っている。	○	今後も介護報告等を有効活用し面会時の報告や情報交換等支援ができるようにする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会だけでなく外出や外泊の機会を自由に行って頂いている。	○	今後も継続して行く。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気軽に集まれる場があり、レクレーションやおやつ作りを通じ関わり合いを深めていく。	○	グループ生活の中でそれぞれの個性に合った活動が出来る様に務める。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了してからも継続的な関係を持っている。	○	行事の案内、定期刊行紙、講習会案内等を利用し、関係継続を試みて行く。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望に沿った支援が出来る様に務めながらご家族にも支援を協力して頂きながら検討対応している。	○	今後も継続して行く。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	安心した暮らしが送れる様に生活環境を作り個人の生活歴の把握に努めている。	○	これまでの生活歴等を把握しその人の望むその人らしい生活を維持できるよう環境作りに努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタル、食事、水分摂取量、排泄、顔色や表情など、生活記録、業務日誌等で総合的な把握に努めている。スタッフの連携に努め報告、検討を行う。	○	常に観察、傾聴を怠る事のない様、注意し今後も支援の向上に努める。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族、全職員の意見を反映した介護計画となっている。	○	本人の出来ること出来ないことを見極めながら安心して暮らせるようご家族と話し合いながら充実させていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族との話し合いはもちろんケア会議等を通じて検討を行っている。	○	定期的にモニタリングを行い少しの変化にも注意を払い現状に即した計画を作成し充実させて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を各記録に記入し情報を共有し、朝礼やケア会議等を行い、話し合い等、行っている。	○	今後とも話し合い常にスタッフ一人一人の気付きや工夫を検討し実践にいかして行く。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人それぞれに対して見直しや工夫し出来る限り柔軟な支援が出来る様取り組んでいる。	○	ご家族の状況等、考慮しながら、活かされた支援が行われているか、再度見直し取り組んで行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	専門の音楽療法士の方と協力し支援の幅を広げている。ご近所の方が花等、飾って目を楽しませて頂いている。	○	他の機関等も検討し支援の輪をもっと広げて行く。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社内に複数の事業所が在るためケアマネ会議、主任会議、管理者会議等、を行い話し合い、取り組んでいる。	○	社内に限らず、多方面の方々とも交流し支援につなげて行く。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの交流は無い。	○	今後は地域包括支援センターとも交流を行いケアマネジメント等に生かしていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常健康管理として居宅療養管理指導で往診、訪問看護をして頂き相談、指示を受けています。	○	往診や訪問看護時に適切な情報伝達を行って行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	居宅療養管理指導を行っているDrが診療内科の専門なので24時間の対応を行っている。	○	今後も協力して頂き健康管理を行いつつスタッフの指導にも取り組んでいきたい。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護の看護師が24時間対応している。健康管理や医療活用の支援をしている。	○	記録など充実させてこれからも支援向上をはかる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の主治医と入院中から退院に向けた支援の準備を行っている。退院後の生活指導も行っている。	○	今後も取り組んで行く。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応はマニュアル化されており各ご家族の方よりも了解を得ている。悪化が予測される場合は家族に連絡し相談、対応している。	○	今後ご家族に相談や報告し又、希望に添える様に取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常の健康管理の記録を行い異変、変化の早期発見に努め異変時等は医師に報告し指示を受け度合によりご家族と話し合い、支援、方向性を決めている。	○	今後も医療やご家族と密に連携しグループホームで出来る限りの支援をして行く。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時のダメージはご家族の協力のもと、支援している。又、孤独さを感じさせない様に「心のケア」の工夫を行っている。	○	今後も工夫を重ね行っていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人を尊重し声かけを行う場合も何気なく行う等、心がけている。	○	何気ない会話の中でも、その人を尊重する言葉を心がけ、記録等にも十分に注意をしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々が家族で生活しているような空間を作り家族に話しをする感じを与え希望を表わしやすい、ゆとりある暮らしがして行けるよう支援している。	○	心のケア、ふれあいを重視し、個々の希望等、を引き出して行く。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き入れ、一人ひとりのペースに合わせた一日の流れになっている。 流れに合わせた刺激、生活リハビリ、レクリエーションを行っている。	○	日常生活であっても、平凡ではなく刺激がある程度有る様支援の幅を広げて行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服、身だしなみ等、個々の意志を尊重しその人らしい、おしゃれが出来る様、支援している。	○	その人の着たい服や、髪型など、会話のなかから気持ちをつかみ希望どうりに行くよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で楽しみ、味でも満足し食事することが喜びになるように努める。そして配膳片付け等、入居者と共に行っている。	○	入居者が進んで配膳、支度、片付け等が出来る様に支援して行く。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者が気軽に食堂など出入りできるように開放し近所への買い物等楽しめる様支援している。	○	今後、入居者と話を重ね工夫して行く。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護者の都合で対応するのではなく、その方の排泄パターンを把握し、オムツ等使用を強制したり、増やしたりしない様取り組んでいる。	○	今後も一人ひとりが工夫し習慣を活かし気持ちよく排泄が出来る様に全職員で取り組んでいく。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の楽しみ、リラックスする場であると思っている。時間をある程度決めていますが楽しい入浴が出来る様に支援している。	○	時間等は決めてあるが入浴があまり好きでない入居者の方が喜んで入浴出来る様、工夫したり他の方も楽しめる様、支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の流れを組んでいるが入居者の意思を尊重している。強制しないよう本人の状態に応じて対応している。	○	眠れないような時は無理に寝て頂かずに夜勤者とお茶を飲んだり、お話をしたりご本人が安心出来るまで一緒に過ごすようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出レク、例えば、外食など、おやつ作り、音楽療法、など、レクリエーションの幅を広げて支援している。レクリエーション等で入居者同士のコミュニケーションの場を増やす工夫をしている。	○	今後も工夫を重ねていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今まで入居者様が生活してきた過程を思えば所持金がないというのは不安だと思いがご家族に相談し、少ないが額を持って頂いている。	○	ご家族に許可して頂き、ある程度の額で、一緒に買い物に行き、選ぶこと、支払うこともご本人にして頂いて。帰ってから使用したお金と、おつりが合ってるかを計算していただいている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の状態を観察の上、散歩や、外出レクリエーションなどをおこなっている。外出することにより花や、外の空気に触れることにより、毎日の生活を楽しく過ごして頂くため支援している。	○	今後も希望に添い約束したことを守る様、職員も努力支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の外出は、入居者様にとって一番の楽しみだと思っている。気軽にご家族が外出を申し出が出来る様関、係係作りを行っている。	○	今後、本人やご家族の希望に添い外出できない方に対しても、支援、検討していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族了解のもと行っている。現在は電話したいというより、掛けて欲しいと言うことの方が多い。ご家族の電話はご本人に出して頂いている。	○	本人の言葉通りの要望を支援しつつ日常生活の心理なども支援に考えて取り組んでいく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が気軽に来られて外出が出来る様、支援している。	○	今後も、もっと工夫して良い環境作りに取り組んでいきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引き、厚生労働省を基に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	理解を深め、より良いケアに対応、努力していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険な場所であることもあり、入居者一人の外出は出来ない、又、ご家族にも説明しており了承を得ている。外出の時は職員または家族のもと行っている。	○	今後も、防犯を兼ね自宅と同じ様に鍵をかけるが、外出希望の場合は意志に添える様行っていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者を確認できる位置で作業するよう心がけ職員間で連携し安全に心がける。生活記録により、日勤から夜勤や休日なども把握できるよう記録する。	○	プライバシーに配慮し支援を検討していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品を取り除く際は取り除くだけでなく代用品を置く等対応し検討していく。	○	注意の必要な物を取り除くだけでなく本人の周りに物品が何も無い状態になってしまう為、今後も代用品を検討し支援を行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、朝礼を通じ学び検討しながら取り組んでいる。	○	様々な事故防止法を学んでいく。事故防止策の検討を重ねる。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連携、連絡体制、医師の指示のもとで応急手当を行っている。	○	応急手当に於いても技術向上を目指して取り組んでいる。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年消防点検を行い非常時に備えて実施している。	○	地域との連携は今後も強化していく。 避難訓練は消防署の指導のもとに実施している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	介護報告、処置、往診記録等を元にご家族に報告し相談、説明を行っている。	○	今後ご家族に報告、連絡、相談を支援していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者様の異変や緊急時の対応は往診主治医、24時間連携も含め、ルールを取り決め実践している。	○	「ひやりハット」として気付いた事を記録して異変の早期発見し対応していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックの各記録、連絡ノートを通じ理解して服薬支援を行っている。	○	副作用についても勉強して支援をして行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操の時間を決めて行うだけでなく日常生活の中での動作を通じて動かす工夫をしている。	○	外出も含み、今後も体を動かす意欲が出る様に日常の動作をみつける。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの支援、自立度に応じ、声かけや誘導、介助をしている。	○	今後も同じように支援を続けていく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適正な栄養摂取は献立、材料等、全員で考慮し栄養士のアドバイスを受けている。 水分確保は毎日、時系列で表を作成し個別に記録し、適正量を補給している。	○	栄養士、訪問看護、居宅療養管理指導、血液検査等の結果により個々に指導を受けている。 体重測定、バイタルチェックを常時実施しスタッフ全員で把握し周知している。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防、食中毒予防のマニュアルを作業する必要箇所に掲示している。 朝礼、勉強会でスタッフ全員で衛生管理について徹底している。	○	個々の管理表によるチェック、身だしなみ、エプロンの区別を行っている。 入居者、スタッフ共に、トイレの手拭きタオルの使い捨て、及び清浄ウエットティッシュ使用の実施。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	産地、消費、賞味期限、鮮度、温度管理に注意をはらっている。 食中毒防止マニュアルの全員周知、個人チェック表、上司の再確認を徹底している。	○	適正な温度による保存、早めの処理、消費に心掛けている。 全員の目に入る位置にマニュアルを掲示し、度々目視している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出来る範囲で植木鉢、観葉植物を置いて自然な親しみを出している。	○	明るい室内、共有部分の照明、額縁、近隣から提供していただく季節の鉢を活用して楽しい雰囲気を作っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境にする様、個々に絵画、椅子の個別化、家族の持ち込みによる鉢、スナップ写真を配置している。	○	入居者様が手入れ、育成しやすい植木鉢を本人が好みに応じてお世話している。 談話室等に自作の作品を展示している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分には疲れたら横になるベット、少人数で会話する小テーブル、と変化に富んだ配置に心がけている。	○	何時も本人の思いのままに行動出来る様に個室、危険箇所、以外は全てを開放し自由行動を奨励している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物品、スナップ写真、寝具等、部屋のカーテンに至るまで好みに合わせている。	○	家族、本人のアセスメントを詳細にリサーチし、従来の生活環境に近い状態に整えている。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>主要箇所に温度・湿度計を設置し季節の変化に俊敏に適正に対応している。 消臭剤、芳香剤、窓の開閉を行っている。</p>	○	<p>窓の換気、空調機等、きめ細かに観察し体調に合わせて快適な環境作りに心がけている。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すり、段差、見通し、証明等、入居者様に合わせて、リハビリの場として活用し自立支援に連動する様工夫している。</p>	○	<p>トイレへより強化された安全な手すりを設置して排泄の自立支援をしている。プライバシーを守るための厚手のカーテン、車いす自走の為段差の整備を実施した。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>縫ぐるみによるトイレの表示、で排泄時自分で行動出来る様残存能力の活用。 各部屋個人の名札添付による自分の居場所の提示で混乱を防止して残された「わかる力」の活用をしている。</p>	○	<p>カーテンの色、個々の椅子、車いす、湯呑の個別化をしている。 美容、理容はその人らしく個々を尊重した意志を大切にしている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>出窓に鉢を置いたり、ガラスに目隠しを貼ったりして、自己の主張、プライバシーを大切にしている。 玄関前の草取り、散水を楽しんでいる。</p>	○	<p>今後も入居者様の希望、意見を取り入れて可能な限り実施して納得して頂ける快適な生活をして頂ける様努力し支援をして行く。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. 当社の理念に基づき自由と尊厳を重視し、一人ひとりのそのひとらしさを大切にして、家族的雰囲気を作り自分の父母であつたらと思う事を実施している。
2. 日常生活動作（IADL）、日常生活リハビリを中心に個々に役割を持って頂きスタッフは見守り自立支援を心掛ける。
3. 月1回の川崎市介護相談員によるレク、介護相談等、コミュニケーションを取りながら介護のスキルアップに取り組んでいる。
4. スタッフは介護技術向上ための研修体制の構築にとりくんでいる。
5. 月2回音楽療法士による音楽療法の実施。